【補助資料】

令和４年度　第５５回　北海道公立学校教頭会研究大会

第４分科会　研究課題「組織・運営に関する課題」

提言者　渡島公立学校教頭会
北斗市立島川小学校　足立　雅行

令和４年度　渡島公立学校教頭会研究推進計画

１　研究主題及びサブテーマ（全公教研究主題、道公教サブテーマ、渡公教研究主題）

●全公教第 12 期全国統一研究主題
『未来を生きる力を育む　魅力ある学校づくり』　キーワード＜自立・協働・創造＞
●道公教第 15 次 3 カ年継続研究サブテーマ
「夢をもち未来を創り出す力を育む　活力ある学校づくりの推進」

●渡公教研究主題（道公教渡島ブロック担当→第４課題「組織・運営に関する課題」より）
～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、
組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～

２　主題設定の理由

渡島公立学校教頭会は、全国公立学校教頭会及び北海道公立学校教頭会の研究と連携を図り、令和２年度からの３年間、道公教第１５次３カ年継続研究サブテーマ「夢をもち未来を創り出す力を育む　活力ある学校づくりの推進」の下、渡島ブロック担当の第４課題である「組織・運営に関する課題」に取り組むことにした。

折しも令和元年末からのコロナ禍により、長期的な臨時休業や、国が急速に進めるＧＩＧＡスクール構想等への対応などが喫緊の課題であった。将来の予測が困難な時代の中で、子どもたちに積極的・能動的な「生きる力」を育むために、学びを継続、保障することについて、校内外にあるさまざまな組織の活性化とその活用やマネジメントしていく力等、教頭のより主体的な関わりが求められていくと考えた。そこで、校内はもちろん、異校種間や学校間の組織をＩＣＴ機器等の活用により効率的、効果的に協働させたり、日頃から家庭、地域と連携し、子どもの居場所を確保するための準備を進めたりすることも踏まえ、「子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上」という研究主題を設定した。

渡島の教育のスローガンにもあるとおり、子どもたちを「だれ一人として取り残さない」教育活動を進めるために、教頭として「今できることは何か」について、研究体制の確立、共通取組シートによる実態把握と実践交流を通して研究を深めていく。

３　主題に迫る視点（重点）

【視点１】子どもの学びを保障するための組織的なＩＣＴ機器等の活用とマネジメント
①ＩＣＴ機器の活用（教育的効果と予測される問題点とその解決策　等）
②異校種間、学校間との協働性、家庭・地域との組織的な連携
【視点２】組織の活性化を促す教頭のマネジメント
①学校組織の活性化とデータの管理、保存の在り方　　②働き方改革との関連性について

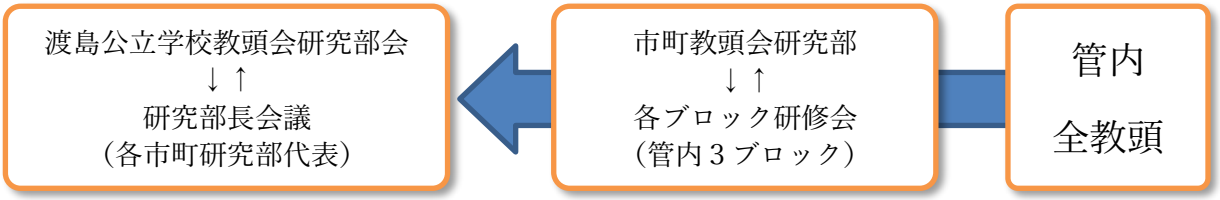
４　研修の年次計画（年度の重点、方針）

・**令和２年度**：研究主題の設定と研修計画の立案、実践交流
○ＩＣＴ機器を活用した各種会議の実践と交流　○各市町の教頭のデータ管理、保存の実態把握
○ＧＩＧＡスクール構想に対応する数年先を見据えたロードマップの作成

・**令和３年度**：実践の改善・深化
　〇各市町の実態把握と実践収集　　〇視点１における課題把握と改善点等の分析
・**令和４年度**：成果と課題、研究のまとめ
　〇視点２における課題把握と改善点等の分析　　〇成果の分析・まとめ（データ化）

５　研修の組織

(1) 組織図



(2) ブロック編成（※会員数の減少により今後変則的なブロック編成も検討）

	各市町名	人数
１ブロック	松前④　福島②　知内④　木古内②	１２名
２ブロック	鹿部②　七飯⑨　北斗⑮	２６名
３ブロック	長万部②　八雲⑪　森⑦	２０名
	計	５８名

６　研修の年間計画

月	研修の行事・業務等	月	研修の行事・業務等
４	・研究部の組織確認	１０	・研究部会　※オンライン会議 ・研究のまとめアンケート集約 ・各ブロック研修会　※オンライン研発等検討
５	・研究推進計画見直し ・研究推進計画の提案・確認 ・研究部会　※オンライン会議	１１	・道公教第３ブロック研修会（未定） ・第５７回渡島公立学校教頭会研究大会（11/26） ※ハイブリッド形式での開催
６	・研究部長会議　※オンライン会議 ・視点２についての課題把握		
７	・視点２についての課題把握	１２	・各市町教頭会の研究の成果の集約
８	・視点２についての改善点等の分析 ・昇任教頭研修会（8/2）	１	・研究部会　※オンライン会議 ・研究部長会議　※オンライン会議 ・研究のまとめ作成
９	・研究部会 ・第５５回全道公立学校教頭会研究大会 小樽大会　9/16.17	２	・研究集録作成　・次年度計画準備
		３	・次年度準備

７　第 57 回渡島公立学校教頭会研究大会の企画

(1) **主　　題**：『未来を生きる力を育む　魅力ある学校づくり』
(2) **開 催 時 期**：令和４年１１月２６日（土）午前日程
(3) **会　　場**：七飯町立大中山小学校（亀田郡七飯町大中山 2-1-5　℡0138-65-2225・65-7166）
※ハイブリッド形式（集合形式とオンライン形式の併用）での開催
(4) **内容の概要**：〇開会式　〇基調報告　〇研究発表（３市町の提言）　〇意見交流
〇全体講評（講師　北海道教育庁渡島教育局義務教育指導監　浦田 慎一 様）　〇閉会式

８　研修成果の集約時期とその方法

(1) **集約の時期**：　１０月、１２月
(2) **集約の方法**：　各市町教頭会による研究報告書による

＜研究推進ロードマップ＞

渡島公立学校教頭会　研究推進ロードマップ　２０２２《ゴールの姿をイメージ化》

【研究主題】　～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～

平成２９年度～令和元年度までの研究成果が土台
「教頭の役割のステージ一覧表」、「共通取組シート」による具体的な実践の成果（→教職員の意識高揚と資質能力向上）
①専門家としての意識高揚　②学校経営への参画意識　③効果的研修
④職務意識の高揚　⑤服務規律の保持徹底　⑥ミドルリーダーの育成

令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度
1年目(小学校:新学習指導要領)	2年目(中学校:新学習指導要領)	3年目(高等学校:新学習指導要領)

【視点１】子どもの学びを保障するための組織的なICT機器等の活用とマネジメント

《研究の立ち上げ》

５月　・研究主題の設定
　　・研修計画の立案
６月　・各市町での実践スタート
７月　・「共通取組シート2020」
　　・ICT機器活用の実践交流
　　・データ管理等の実態把握
　　・働き方改革との関連検証
　　・外部との積極的連携
１０月　・研究アンケート集約①
１１月　・１人１台端末及び高速大容量の通信ネットワークの一体的整備（予定）
１２月　・研究アンケート集約②

実態把握・実践交流

《実践の積み上げ》

・各市町の実態把握と実践収集
・視点１についての課題把握と改善点等の分析

・オンライン教育の推進
・デジタル教科書・教材等、ICTの積極的活用
・異校種間・学校間の協働、家庭・地域との組織的な連携強化

課題把握・改善点分析

《研究の仕上げ》

・視点２についての課題把握と改善点等の分析
・成果の分析、まとめのデータ化

・全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現
・校内研修の充実等、チーム効力感を生み出す組織マネジメントの実現

課題解決・実践の充実

【視点２】組織の活性化を促す教頭のマネジメント

主な社会背景

「新たな社会　Society5.0」
「GIGAスクール構想」
「持続可能な開発目標　SDG's」
「学校での新しい生活様式」

Goal

全国統一研究主題

未来を生きる力を育む魅力ある学校づくり

自ら積極的に未来を創造していく意欲をもって行動する

時代の変化に的確に対応する

生きる力

＜共通取組シート＞

渡公教「共通取組シート２０２〇（兼実践のまとめ）」について

１．「共通取組シート」の位置付け

(1) 令和元年度まで

・　教職員の資質向上と経営参画意識向上に対する教頭の役割を自覚する有効な手立て。

・　「学校で取り組むこと」を各自で定め、「終結」段階における教職員の意識・資質と児童生徒の向上的変容を目指し、リーダーシップを発揮する上で「いつ」「だれに」「どのように働きかけをするか」、ステージを上げるために取り組んだことを成果として積み上げることで自己研鑽に励む。

・　令和２年度以降の研究の土台

(2) 令和２年度

・　「共通取組シート」という名前を引き継ぎ、内容を研究主題に合ったものに切り替えつつ「実践のまとめシート」と兼ねる形式とすることで、日常的な実践と成果や課題を蓄積しやすいよう工夫した。

(3) 令和３年度・令和４年度　→　継続

２．「共通取組シート」の使い方

(1) まずは、各学校における実践内容を実践の都度記していく。

(2) 可能なものは、「いつ」「だれが」「どのように」行った実践かがわかるように記す。

(3) 今年度は【視点〇】を重点とする。必ずしもすべての項目を埋めなければならないという縛りのあるものではない。　→　特に力を入れた実践があれば、それに特化することもあり得る。

(4) 各学校の実践については、最終的に各市町で１枚に取りまとめる。取りまとめ役は、各市町の研究部長。　→　渡公教研究大会の資料や最後の研究紀要の原稿として活用する。

３．視点について（※下記のポイントはあくまでも例）

(1) 【視点１】について

①　「ICT 機器の活用」

→　オンライン授業などの各校で実践してみて得られた教育的効果、また、浮き彫りになった問題点や課題を記す。可能であれば、解決策まで記す。

②　「異校種間、学校間との協働性、家庭・地域との組織的な連携」

→　ICT の活用等を通して交流機会が増加した事例や、家庭学習課題などに活用できたことなどを含め、他と協働できたものがあれば、些細なものでもよいので記す。

(2) 【視点２】について

①　「学校組織の活性化とデータの管理、保存のあり方」

→　教頭が関与して活性化を実現した学校組織などの好事例があれば記す。

→　校務支援システム等の活用例をはじめ、勤務校が変わっても取り出しやすいデータ管理のあり方など、好事例があれば記す。

②　「働き方改革との関連性」

→　学校組織の活性化やデータ管理等が働き方改革に及ぼす影響等について、教頭がどうマネジメントすれば実効性を高められるかなどの視点で記す。

渡公教「共通取組シート ２０２０」兼「実践のまとめシート」

教頭会

【視点1 】子供の学びを保障するための組織的な ICT 機器等の活用とマネジメント		
○ICT 機器の活用	教育的効果について （ＩＣＴ機器活用の実践と組織的な取組）	予測される問題点とその解決策について
○異校種間、学校間との協働性、家庭･地域との組織的な連携	外部との協働、連携の実践内容	主な成果と課題
【視点2 】組織の活性化を促す教頭のマネジメント		
○学校組織の活性化とデータの管理､保存のあり方	現状における課題等（組織の活性化）	具体的な解決策

R03 渡公教「共通取組シート 2021（兼実践のまとめ)」　（　　）教頭会

【研究主題】　～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～

＜令和３年度の重点＞

【視点１】子供の学びを保障するための組織的な ICT 機器等の活用とマネジメント

○ICT 機器の活用	ＩＣＴ機器活用の具体的な実践について	実践における成果について
○異校種間、学校間との協働性、家庭・地域との組織的な連携	外部との具体的な協働・連携について	協働・連携の成果について
○課題把握と改善点について（研究主題に迫る教頭の関わりという視点も加味してください)	視点１に係る具体的な課題について	視点１に係る具体的な改善点について

※お願い…本シートをまとめる際にはＡ４両面で１枚に収めて下さい。←この文は削除して下さい。

R04 渡公教「共通取組シート 2022（兼実践のまとめ)」　（　　）教頭会

<table>
<tr><td colspan="3">【研究主題】　～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～
＜令和４年度の重点＞【視点２】組織の活性化を促す教頭のマネジメント</td></tr>
<tr><td rowspan="4">①学校組織の活性化とデータの管理、保存の在り方</td><td>学校組織の活性化の具体的な実践について</td><td>実践における成果について</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td>データの管理、保存の在り方の具体的な実践について</td><td>実践における成果について</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">②働き方改革との関連性について</td><td>働き方改革との関連に係る具体的な実践について</td><td>実践における成果について</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">○課題把握と改善点について（研究主題に迫る教頭の関わりという視点も加味してください）</td><td>視点２に係る具体的な課題について</td><td>視点２に係る具体的な改善点について</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
</table>

※お願い…本シートをまとめる際にはＡ４両面で１枚に収めて下さい。←この文は削除して下さい。

～記載例～

渡公教「共通取組シート ２０２０」兼「実践のまとめシート」

八雲町教頭会

【視点1 】子供の学びを保障するための組織的な ICT 機器等の活用とマネジメント

○ICT 機器の活用	教育的効果について （ＩＣＴ機器活用の実践と組織的な取組）	予測される問題点とその解決策について
	【既存の ICT 機器の利活用】 ・指導用ｺﾝﾃﾝﾂの充実と日常的な活用 ・機器例）PC、書画ｶﾒﾗ、ﾀﾌﾞﾚｯﾄ ・活用例）投影、検索、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ作成、映像活用 【GIGA ｽｸｰﾙ構想に係る ICT 機器の利活用】 ＜八雲町→「G Suite for Education」を利用＞ ○　活用構想 ・ﾘﾓｰﾄ学習、授業や家庭学習 ・ｸﾗｳﾄﾞ上での教材の共有 ・解答結果やｱﾝｹｰﾄ結果の自動集計 ・meet 機能を生かした対話的な学習 ○　研修活動の推進（教職員、児童・生徒） ○　校内利用規則の策定（町の利用規約に基づく） ※　組織的な取組 ・専門委員会の設置や担当者の任命 ・ﾛｰﾄﾞﾏｯﾌﾟの作成と共有 ・各教科での活用計画の作成（教育課程） ・先進的な事例の収集と発信・共有	【問題点】 ①教職員の意識や使用スキルの差による子供の学びの保障への差が生じること ②端末の家庭への持ち帰りに伴う、利用・管理についての保護者への周知や徹底を図ること ③児童・生徒へのマナーも含めた機器操作能力の向上（発達段階を踏まえて） 【解決策】 ①教職員の意識改革とスキルアップの実現 →　・研修の充実 ・ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽの再確認と徹底 （個人の連絡に使わない） ①教育課程における ICT 活用の位置付けを明確化すること ②情報発信の工夫、必要に応じた保護者説明会の実施など ③情報活用能力育成のための全体計画の策定 （いつまでに、何ができるようになる）
○異校種間、学校間との協働性、家庭・地域との組織的な連携	外部との協働、連携の実践内容	主な成果と課題
	【ICT 活用】 ・町教委主催による ICT ﾘﾓｰﾄ説明会 ・小中一貫教育の一事業として、合同研修会の実施 【既成の取組への ICT 活用を検討する】 ・中から小への乗り入れ授業での活用 ・複式校間や同一中学校区での小学校間における交流学習での活用 ※　GIGA ｽｸｰﾙ構想に係り職員研修の充実や、校内体制、計画策定を図っている途次のため、協働・連携を視点とした取組は、今後の課題としている。	【成果】 ・ﾘﾓｰﾄ研修は集合型に比べ移動時間等、職員の負担軽減に結びついている 【課題（予想も含む）】 ・発達段階を踏まえた活用の見通しをもつことや、小中一貫した計画作りが必要 ・保護者に十分な理解を得ながら運用するための説明機会や方法の工夫が必要

【視点2 】組織の活性化を促す教頭のマネジメント

○学校組織の活性化とデータの管理、保存のあり方	現状における課題等（組織の活性化）	具体的な解決策
	【GIGA ｽｸｰﾙ構想に係る ICT 活用について】 ・専門的な知識が十分ではないため、ICT 教育担当者の負担が大きいこと ・ICT 環境整備のｽﾋﾟｰﾄﾞｱｯﾌﾟに伴う担当分掌への業務偏向 ・教職員一人一人の意識改革とスキルの向上 【校務分掌】 ・小規模校においては、職員数が少ないことによる一人一分掌的な組織体制や一人当たりの業務量の増加	【GIGA ｽｸｰﾙ構想に係る ICT 活用について】 ・研修計画の再編と実施 ・専門性がなくても対応できるﾏﾆｭｱﾙの作成 ・既存の校務運営委員会に ICT 環境整備に向けた特別委員会を兼務させる ・ﾛｰﾄﾞﾏｯﾌﾟ作成時において業務の偏りがでないように各担当を配置 【校務分掌】 ・行事等の計画（立案）担当の分掌に教頭が入り、協議・改善を図る ・一人に業務が偏らないよう協働体制を構築

	現状における課題等（データ管理、保存）	具体的な解決策
	【教頭の立場で】 ・各市町で導入している校務支援システムの違いと各個人ごとの仕分け方に違いがあるため、転勤先でデータの取り出しに苦労がある。 ・フォルダーの名前や配列等，それぞれの教頭によって特徴があるため、データを探すことに苦労する。 【業務効率化を目指す情報の共有化に向けて】 ・学担が個々に作成した教材は、個々のフォルダ内に保存されているため教材の共有化が進まない ・個人でのデータ保管から共有データへの移行	【教頭の立場で】 ・まずは町全体で保存方法の仕方をある程度統一できるようｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝを検討することの可否判断から始めること ・異動時にﾃﾞｰﾀ保存の配列の仕方について、確実に後任に引き継ぐ 【業務効率化を目指す情報の共有化に向けて】 ・教務部を中心に、学年・教科別のフォルダを作成し、個々が作成した教材データを保存し共有する体制を整備する
○働き方改革との関連性について	教頭の組織マネジメント力向上のポイント	今後の課題
	【業務改善を進めるための４つのﾎﾟｲﾝﾄ】 ①学校や働き方改革の目標を教職員全員で共有 ・学校教育の課題の把握 ・働き方改革に関する国等の動向の理解 ②潜在的な疑問の掘り起こし（疑問の共有化） ・全教職員の業務削減に対する意見集約 ③心配の先取りをせず、まずできることから実行 ④前例、習慣、経験を強調しない 【人事評価制度の活用】 ・面談における勤務時間を意識した働き方への意識付け 【分掌業務の見直し】 ・分掌業務等の仕事内容の軽重を検証し、業務の精選及び均等化を図る ・働き方改革チームの設置 ・教頭による積極的な指導・助言 ・協働体制の構築（チーム学校）	・業務改善が子供の学びの保障を損なわないよう留意すること ・勤務時間だけに捉われず、効率よい業務内容の充実を目指すこと ・１年単位の変形労働時間制への共通理解と活用 ・研修時間の確保や面談機械の充実を図るための時間や方法の工夫 ・教職員の働き方改革へ取り組む意欲の維持・向上に資する教頭の個々への働きかけ ・行事等のスリム化を進めるにあたり、地域・保護者の理解を得ること

渡公教より示された研究主題「子どもの『学びの保障』をするための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上」の具現化に向かい、それをそのまま八雲町教頭会の研究主題として、今年度の研究を推進している。3 年次研究の初年度ということから、実態把握と取組を町内各校において「共通取組シート」に整理し、それらの交流とともに改善・充実に向けた協議を進めてきた。

コロナ禍に対応した新しい生活様式の徹底や、国の施策として前倒しとなった GIGA スクール構想への対応（研修対応や環境整備等）などに追われ、十分な協議を進める時間を確保できなかったことは反省点である。

その中において、町内の各学校における先導的な取組や共通した取組などを踏まえ、今後、教頭として自校におけるマネジメントの改善に生かしていくべき指標や内容として、この「共通取組シート ２０２０」兼「実践のまとめシート」に整理した。

特に GIGA スクール構想に係るＩＣＴ環境整備（設備面）については、八雲町教育委員会の尽力により 11 月末には一人一台の端末が整備される計画である。そこから実際に端末の使用を通しながら、ロードマップの見直しを図ったり、課題の洗い出しや解決策の検討を進めたりするなど、教頭が担うべき役割は大きいと考える。教頭の負担軽減にもつながるよう、町内の教頭間で情報の共有等を進め、子どもの「学びの保障」に向けた取組を具現化することに努めていく。

R03 渡公教「共通取組シート 2021（兼実践のまとめ)」　　北斗市教頭会

【研究主題】　～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～

＜令和３年度の重点＞

【視点１】子供の学びを保障するための組織的な ICT 機器等の活用とマネジメント

○ICT 機器の活用	ＩＣＴ機器活用の具体的な実践について	実践における成果について
	【タブレット端末の日常的な活用を目指して】 ○　授業や朝自習等での利用場面の設定 ・　登校時に保管庫から各自教室に持っていき、下校時に保管庫に戻すなどの約束の徹底 ・　デジタル教科書、学習支援ソフトの活用	・　児童の操作スキルの向上。 ・　タブレットが身近にあることで、授業での活用場面が増えていること。 ・　児童一人一人の考えや意見を瞬時に集約、クラスで共有しながら進めるなど、子供たちの考えを交流する場面で、相互に情報の発信・受信する授業展開が可能となったこと。
	○　「Zoom」や「Teames」の活用 ・　コロナ禍による臨時休業や出席停止、不登校や長期欠席児童生徒への対応として、オンライン学習体制の整備と試行及び実践（学びの保障） ・　行事や児童会集会活動、夏休み学習サポート等の実施	・　教師、児童共にオンライン授業の実施へ向けてのスキルアップが図られ、効果的な活用の幅が広がったこと。 ・　不登校気味の児童や個別の指導・支援が必要な児童も別室（校内適応指導教室や少人数教室）での Zoom による授業参加が可能となり、一斉・協働的な学びに参加できるようになったこと。（欠席児童の減少・学びの保障） ・　感染症対策として、児童・生徒の安心・安全を守りながら教育を進めることができたこと。
	【職員研修の充実を目指して】 ○　一人１台端末を授業で有効に活用するための職員研修を計画し、職員のスキル向上を図ること ＜内容＞・タブレット端末の運用方法や活用例 ・デジタル教科書の活用方法 ・「Zoom」や「Teames」の使い方	・　授業における具体的な活用例を共有することで、日常の授業での効果的活用が見られたこと。 ・　教職員が一斉に ICT 機器に触れる機会を可能な限り増やす努力をすることで、効果的な活用法の交流の場が生まれ、短時間で多くの情報を共有することができたこと。
	【組織体制の工夫】 ○　ＩＣＴ教育推進のロードマップの策定 ○　新しい分掌を立ち上げたり既存の分掌（教務・研究）に位置付けたりするなど、推進担当を明確化し教頭との綿密な連携の下、取組を推進すること。	・　取組に対する教職員の共通理解と計画的な業務推進に役立っていること。 ・　役割分担を明確にすることで一人一人の責任と教職員全体での協働体制をもって取組が進んでいること。
○異校種間、学校間との協働性、家庭・地域との組織的な連携	外部との具体的な協働・連携について	協働・連携の成果について
	【異校種間、学校間との協働性を生かした取組】 ○　市のＩＣＴに関わるプロジェクトによる各小中学校の組織的な連携を図ること ・　専門チームを組織（情報活用・プログラミング教育、タブレット活用、クラウド活用）し、それぞれの目標を具現化するための取組の推進	・　市内小中学校の共同歩調によるＩＣＴ活用を推進していること。

	・　人型ロボット「Ｐｅｐｐｅｒ」活用（各校巡回）によるプログラミング学習の推進と指導事例の共有 ○　地域中学校区の小中連携組織を核として、小小連携、小中連携によるＩＣＴを活用した教育活動の推進 ○　上磯高校・北斗高等支援学校・上磯中学校・上磯小学校との連携 ・　４校合同での跨線橋壁画ペンキ塗り作業、支援学校とのデュアル実習（本校校舎の窓拭き作業）、上中との合同避難訓練や専科制導入に向けた学級経営・生徒指導の在り方などの研修を予定 【家庭・地域との組織的な連携】 ○　保護者・ＰＴＡ役員、学校運営協議会員とのメール活用（学校便り・会議案内・学校評価・その他お便り） ○　学校安全メールの効果的活用 ・　緊急時連絡 ・　アンケート機能の活用 ○　新型コロナウイルス関係で長期間欠席を余儀なくされている家庭とオンラインによる面談の実施	・　クラウドで指導事例を共有することで、指導に係る準備などを効率的に行えること。 ・　中１ギャップの解消、学校間連携による話し合いや学び合いの充実などが期待できること。 ・　小規模校同士のつながりや、コミュニケーション能力の向上、学びの深化が図られていること。 ・　市内でのつながりが深まることで、学習指導や生徒指導上の成果や課題が明らかになり、指導内容の共有や精選を経て、目指す方向性が絞られてきていること。 ・　集合型での会議にかわり、メールによる会議の案内や書面会議を行い、簡単な議決内容はメール内のアンケート機能を活用、学校評価のような大容量な内容は、Google フォームを活用することで、計画通り実施し、連携の継続・校務の効率化を図っていること。 ・　保護者、児童共に担任との面談を通して、不安を取り除き、安心してもらうことができていること。
○課題把握と改善点について（研究主題に迫る教頭の関わりという視点も加味してください）	視点１に係る具体的な課題について	視点１に係る具体的な改善点について
	【タブレット端末の活用】 ○　使用機会の増加に伴い、タブレット端末の設定や変更等に関わる作業が発生し、多忙化に拍車がかかっていること。 【教職員】 ○　教職員によって、ＩＣＴ活用度に差があり、教頭の関与によって、どう改善していくかということ。 【研修】 ○　授業での使い方を学ぶ校内研修になりがちになるということ。 【連携】 ○　市や中学校でそろえるべき部分を確認した上で自校化するにあたり、教頭の横のつながりが重要であること。 【家庭との連携】 ○　学校と家庭とでのオンライン授業実施に係る各家庭でインターネット接続環境がない場合の対応について（特に児童が登校できない状況となった場合の対応）。	・　プロジェクトの活用により市内での窓口一本化、交渉や改善事項の取りまとめを進め、可能な限り教育委員会や業者に一任する態勢を整えること。 ・　研修担当者を中心に、授業展開においてＩＣＴ機器の有効な活用法等の研修を進めさせ、全教員が統一した意識で授業改善に取り組めるよう、指導・助言を行うこと。 ・　ＩＣＴ機器を活用した授業実践を通して、子供にどのような能力を身に付けさせるか、校内で共通理解の下、進める態勢を整えること。 ・　常に教頭間で連絡を取り合い、情報共有を行いながら自校のマネジメントを進めること。 ・　教育委員会と連携し環境整備に向けた取組を検討すること。家庭環境を把握し、インターネット接続に頼らずにタブレット端末内の学習ソフトなどの利用で他の児童と遜色ない対応について探ること。